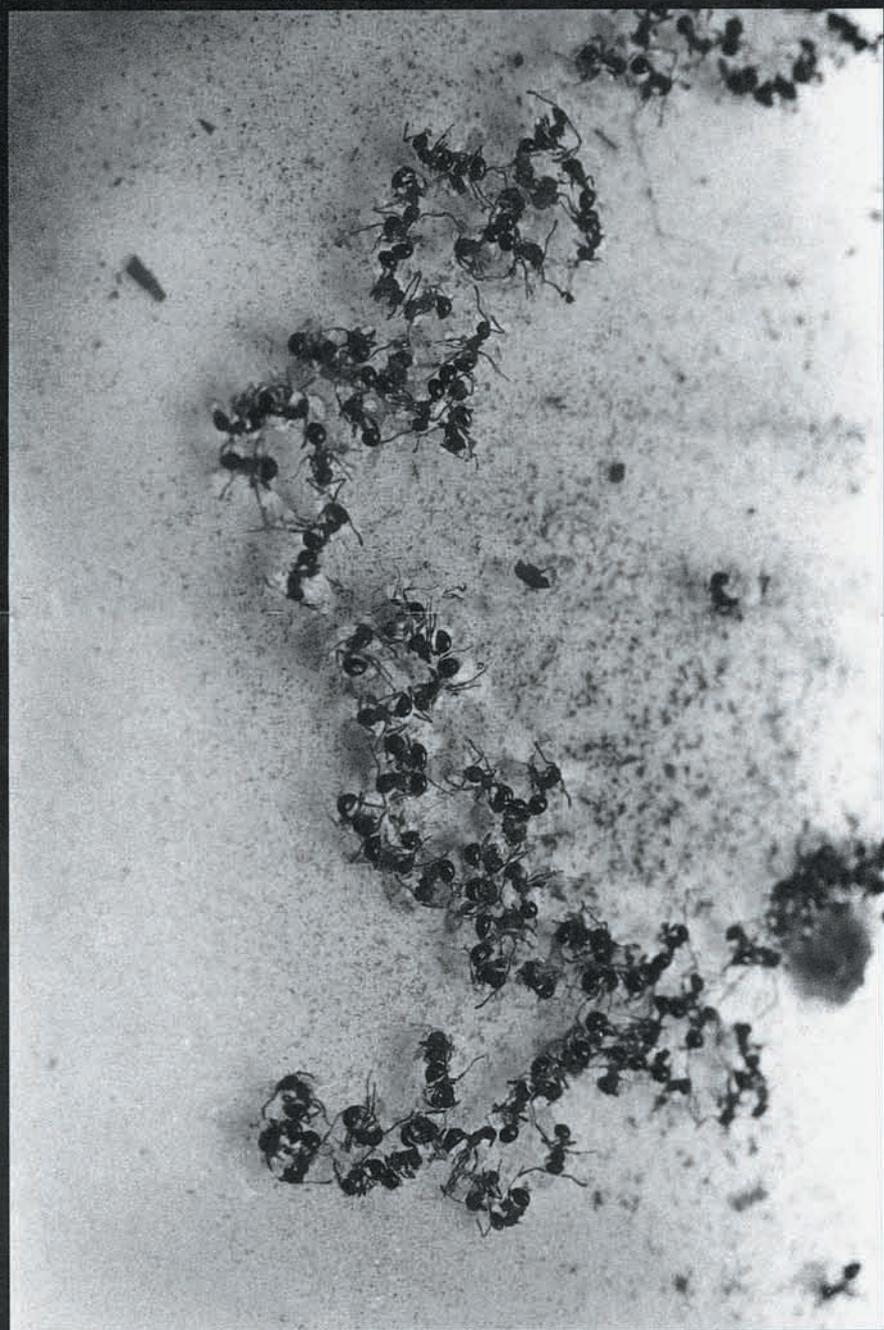


川田喜久治 百幻影



KIKUJI KAWADA 100 ILLUSIONS

2018年8月31日-10月11日

キャノンギャラリーS

開館時間：10時-17時30分

休館日：日曜・祝日

入場無料

※このファイルは2018年キャノンマーケティング
ジャパン株式会社より出された案内パンフレット
を元に照井康文が制作しました。

[川田喜久治](#) [Top](#)

Canon

ロス・カプリチオス

Los Caprichos

「1966年から70年にかけて、バロックのイメージをアジア、ヨーロッパに取材し、「聖なる世界 Sacré Atavism」という写真集を作りました。オブジェに封じられた精神世界を探りながら、自分の制作にそれがどう関わって行くのかを考えざるをえませんでした。写真をストレートのままでなく、角度を変えながら、現われてくる世界も探ってみたくて思っていました。夢のなかの光景が、現実を逆襲するようなトーンを思い浮かべたりしたのです。」

これはかなり写真のプロセスとは逆行しています。写真は見たものを無心にあるときは厳粛に、さらにスリのようにすばやく写します。文学のように、自我と世界の複雑な心理的な構成もなく、また、高度な抽象や超現実のオブジェに異化する絵画などとも違うのです。映画とは逆に動きを作らず、時を切断するのが写真です。」

『ゴヤのエッチング集「ロス・カプリチオス=気まぐれ」や「ロス・デザストレス・デ・ゲーラ=戦争の惨禍」「ロス・プロベルビオス=妄」などを繰り返し眺めているうちに、銅板に刻み込んだ幻想が、いつしか私の頭のなかに住みついたらしく、そのイリュージョンが目の前に現われてくるという時期がながいあいだ続いていた。夜、見た夢の続きを白昼また見ているようで、イメージはますます錯綜し、混迷の度を加えているようでもあった』

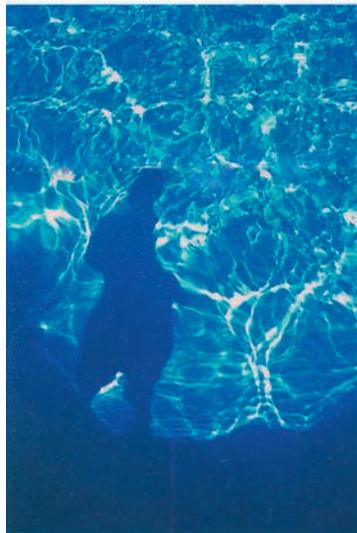
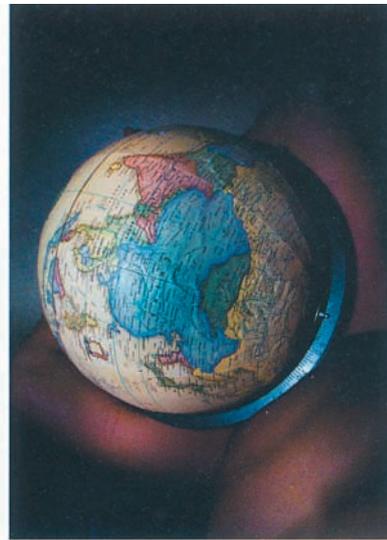
「いま、コンピュータで再生されたイメージには、眠り続けた記憶が表に出ようと、名残の袋を破ろうとしています。さまざまな既視感を膨らませ、あるものは、見知らぬ影にかわり、遺伝的には同一で、どこか危険なクローンのような遺伝子を印しているのです。」

ラスト・コスモロジー

The Last Cosmology

「怪しく光る夜空への誘惑とともに、カタストロフをかかえたものたちが、目を覚ましたように身近に感じられてきました。20世紀後半の1980年代頃から撮り始めたオブジェは異変や破局をどこかに抱えているようなものばかりです。写されたオブジェは、違ったものになる能力を持っていました。それらは、新しい経験をうながすものばかりです。見えにくいものが音を立てながら、素早く動いてくるのです。闇からの流星群のように。」

「二十世紀最後の金環蝕、金星蝕、皆既日蝕など天空の事象につづき、わが地上にも昭和期の終焉がありました。象徴的な太陽は、謎を抱えたまま雲間に消え去ったのです。最後のものを天と地に感ずることで、「ラスト・コスモロジー The Last Cosmology」としました。今日のコスモロジーは、気の遠くなる数式の素粒子論とか、物理学がきってもきれない関係にあるでしょうが、私の「ラスト・コスモロジー」は、地球の様々な物質が、彼方の空や雲と交流しながら進行する類推の山、写真の装置が見つけたアナロジーで、光と影が生んだイリュージョンなのです。」



川田喜久治 (かわだきくじ)

1933年茨城県に生まれる。1955年立教大学経済学部卒業。『週刊新潮』の創刊(1956年)より、グラビア等の撮影を担当。1959年よりフリーランス。「VIVO」設立同人(1959～1961年)。主な個展に「ゼノン-ラスト・コスモロジー」フォト・ギャラリー・インターナショナル[以下PGI](東京1996年)、「カー・マニャック」PGI(東京1998年)、「Eureka 全都市」PGI(東京2001年)、「川田喜久治展世界劇場」東京都写真美術館(東京2003年)、「地図」PGI(東京2004年12月-2005年2月)、「川田喜久治写真展 Eureka 全都市 Multigraph」東京工芸大学写大ギャラリー(東京2005年)、「見えない都市」PGI(東京2006年)、「川田喜久治展 ATLAS 1998-2006 全都市」エプサイト(東京2006年)、「遠い場所の記憶:メモワール 1951-1966」PGI(東京2008年)、「ワールズ・エンド World's End 2008～2010」PGI(東京2010年)、「日光-寓話 Nikko-A Parable」PGI(東京2011年)、「2011-phenomena」PGI(東京2012年)、「The Last Cosmology」Michael Hoppen Gallery(ロンドン・2014年)、「The Last Cosmology」L.PARKER STEPHENSON PHOTOGRAPHS(ニューヨーク・2014年)、「Last Things」PGI(東京2016年)、「ロス・カプリチオス-インスタグラフィー 2017」PGI(東京2018年)がある。グループ展多数。作品は東京国立近代美術館、東京都写真美術館、ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、テート・モダン、ボストン美術館などにコレクションされている。

「ロス・カプリチオス」と「ラスト・コスモロジー」を再編し、「百幻影-100 Illusions」として展示いたします。また、グラフィックデザイナー田中義久氏がポスター展示でコラボレーションいたします。

©Kikuji Kawada, Courtesy of PGI

CANON GALLERY S

キャノンギャラリーSはデジタルイメージングの楽しさ、映像表現の無限の可能性を体感していただくためのアートスペースです。

話題のアーティストによる作品展を順次開催して参ります。

●開館時間：10時～17時30分、休館：日曜・祝日、入場無料

●JR品川駅港南口より徒歩約8分 京浜急行品川駅より徒歩約10分

キャノンマーケティングジャパン株式会社

CANON TOWER

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

TEL.03-6719-9021

Canon.jp